

第144期末 (2023年10月16日)

基準価額 1,697円

純資産総額 430億円

第139期～第144期
(2023年4月18日～2023年10月16日)

騰落率 7.8%

分配金合計 120円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター 0120-762-506

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

ニッセイ グローバル好配当株式プラス (毎月決算型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

作成対象期間:2023年4月18日～2023年10月16日

第139期(決算日2023年5月15日) 第142期(決算日2023年8月15日)
第140期(決算日2023年6月15日) 第143期(決算日2023年9月15日)
第141期(決算日2023年7月18日) 第144期(決算日2023年10月16日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ニッセイグローバル好配当株式プラス(毎月決算型)」は、このたび第144期の決算を行いました。

当ファンドは、「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ」への投資を通じて、主に日本を含む各国の好配当株式への投資およびコール・オプションの売却取引を行い、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書(全体版)をダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書(全体版)

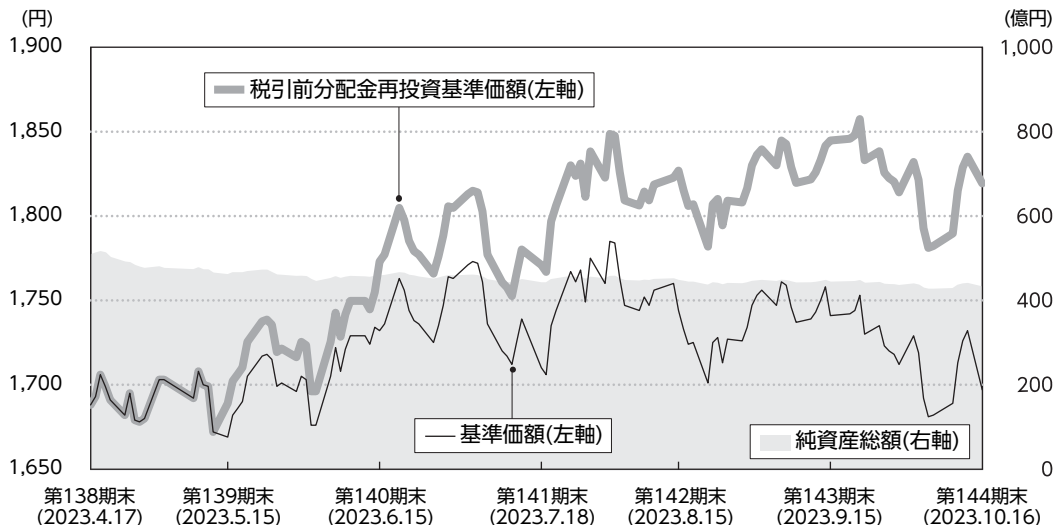
UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

運用経過

2023年4月18日～2023年10月16日

基準価額等の推移



第139期首	1,688円	既払分配金	120円
第144期末	1,697円	騰落率 (分配金再投資ベース)	7.8%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

■基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・ 6月上旬から下旬にかけて、堅調な米景気動向や生成人工知能（AI）を巡る期待感などから株価が上昇したことに加え、底堅い米経済指標の発表や追加利上げ姿勢を示す米連邦準備制度理事会（FRB）と金融緩和策を維持する日銀との金融政策の方向性の違いが明確となったことなどにより、米ドル高円安基調で推移したこと
- ・ 7月下旬から8月上旬にかけて、日銀が本格的な金融政策の正常化まで時間を要するとの見方が広がったことや米経済に対する楽観的な見方が強まったことなどを受けて米金利が上昇したことから、米ドル高円安基調で推移したこと

<下落要因>

- ・ 7月上旬から中旬にかけて、日銀の内田副総裁の発言を受け金融緩和修正への期待感が高まったことなどから、米ドルが対円で下落したこと
- ・ 9月中旬から10月上旬にかけて、原油価格の上昇やFRBの金融引き締め長期化懸念などを背景に米金利が上昇したことが嫌気され、株価が下落したこと

1万口当たりの費用明細

項目	第139期～第144期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	15円	0.855%	$\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は1,725円です。
(投信会社)	(8)	(0.459)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(7)	(0.382)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(0)	(0.014)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	0	0.000	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.000)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	(0)	(0.000)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・ 借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	15	0.855	

(注1) 作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

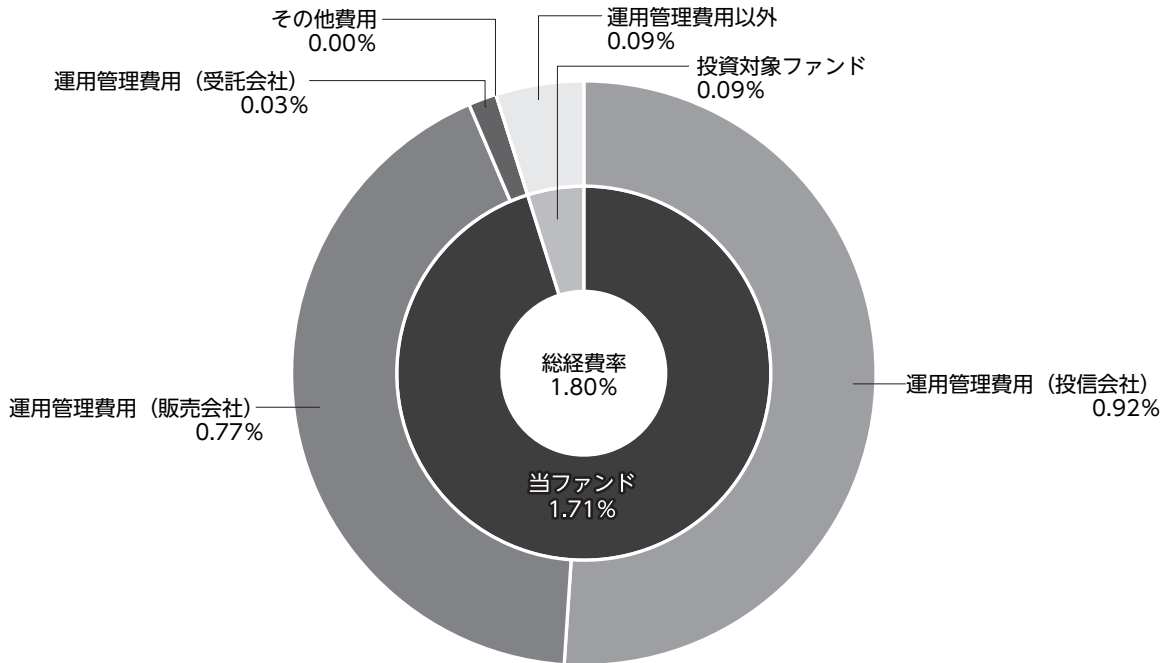
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

（参考情報）

■ 総経費率

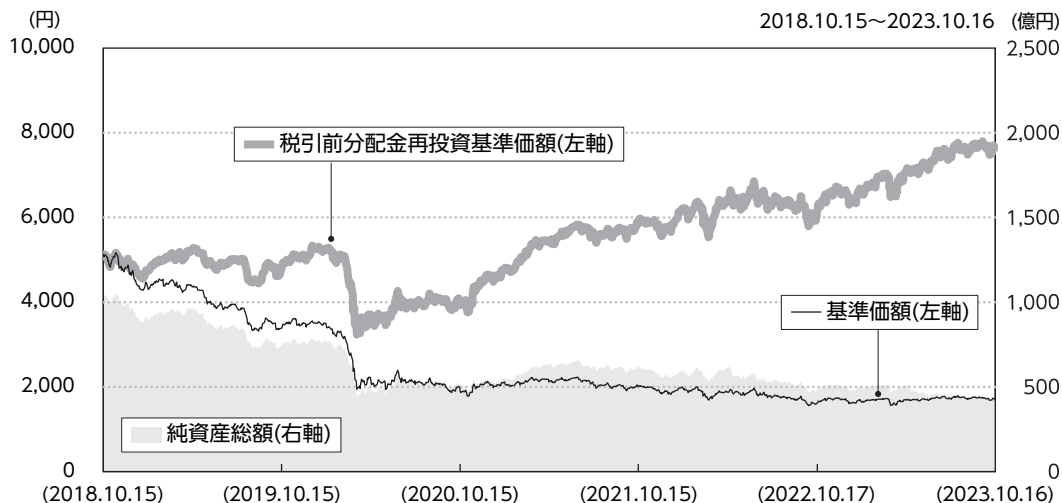
作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.80%**です。



総経費率（①+②）	1.80%
①当ファンドの費用の比率	1.71%
②投資対象ファンドの運用管理費用以外の比率	0.09%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
 (注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
 (注3) 各比率は、年率換算した値です。
 (注4) 投資対象ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。
 (注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資対象ファンドが支払った費用を含みません。
 (注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
 (注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。
 (注8) 投資対象ファンドの運用管理費用はありません。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、2018年10月15日の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

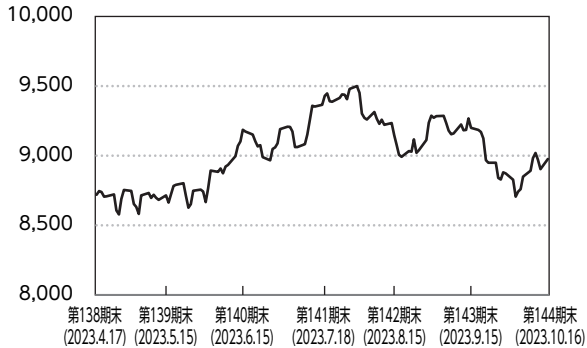
決算日		2018年 10月15日	2019年 10月15日	2020年 10月15日	2021年 10月15日	2022年 10月17日	2023年 10月16日
基準価額（分配落）	(円)	5,126	3,381	1,902	2,000	1,623	1,697
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	1,450	990	700	460	290
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	△6.5	△16.2	47.0	4.3	24.0
参考指数騰落率	(%)	—	4.0	11.2	37.9	2.1	23.5
純資産総額	(百万円)	104,188	73,790	49,754	60,773	48,337	43,003

(注) 参考指数はMSCIワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）です。なお参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

投資環境

株式市況

【MSCIワールド・インデックス
（配当込み、米ドルベース）の推移】



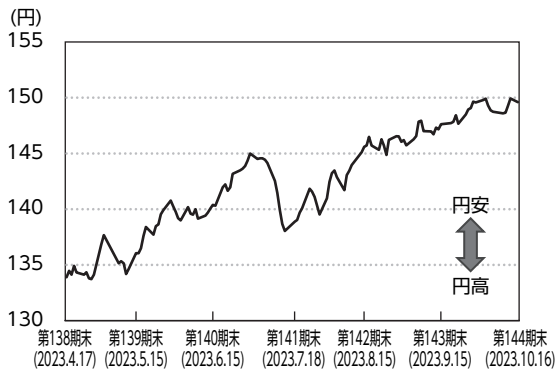
(注) 指数はブルームバーグのデータを使用しています。

株式市場は当作成期を通じて見ると上昇しました。

当作成期初から5月末にかけて、米金融機関に対する信用不安や米企業の業績発表などから株価は一進一退の動きとなりました。その後、6月は堅調な米景気動向や生成AIを巡る期待感などから、7月は米利上げ停止観測の高まりや中国政府の景気支援を強化する方針などから株価が上昇しました。8月上旬から当作成期末にかけては、生成AI需要拡大による米大手半導体企業の好業績発表などからAI関連銘柄を中心に反発する場面もありましたが、中国の景気減速や不動産問題の深刻化に加え、原油価格の上昇やFRBの金融引き締め長期化懸念などを背景に米金利が上昇したことが嫌気され、株価は下落基調で推移しました。

為替市況

【米ドル/円レートの推移】



(注) 為替レートは対顧客電信売相場仲値のデータを使用しています。

米ドル/円レートは当作成期を通じて見ると米ドル高円安となりました。

当作成期初から6月末にかけては、底堅い米経済指標の発表や、追加利上げ姿勢を示すFRBと金融緩和策を維持する日銀との金融政策の方向性の違いが明確となったことなどにより、米ドル高円安基調で推移しました。しかし、7月上旬から中旬にかけては、日銀の内田副総裁の発言を受け金融緩和修正への期待感が高まったことなどから、米ドルが対円で下落しました。その後、当作成期末にかけては、日銀が本格的な金融政策の正常化まで時間を要するとの見方の広まりや米経済に対する楽観的な見方の強まりなどを受けて米金利が上昇したことから、米ドル高円安基調で推移しました。

ポートフォリオ

■当ファンド

外国投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む各国の好配当株式への投資およびコール・オプションの売却取引を行い、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行いました。

■シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ

* シュロージャー・インベストメント・マネジメント株式会社の資料（現地における当作成期末基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

組入銘柄については、新興国を含む全世界の株式を投資対象とし、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に、配当の安定性や成長性、企業業績の動向等を総合的に勘案し、投資銘柄を決定しました。

当作成期末時点における業種配分は、組入比率の高い順にコミュニケーション・サービス（20.0%）、金融（16.8%）、ヘルスケア（13.1%）としており、国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ（28.3%）、イギリス（18.0%）、日本（15.3%）としています。

（注1）業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

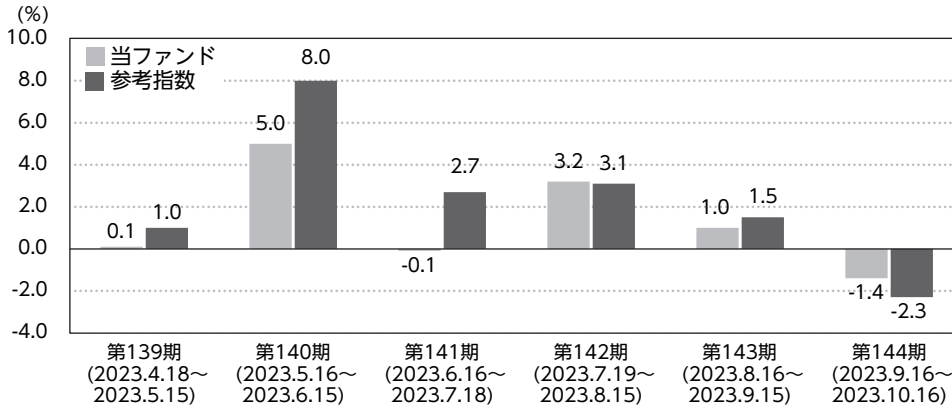
（注2）比率は対組入株式等評価額比です。

（注3）国・地域はシュロージャー・インベストメント・マネジメント株式会社の分類によるものです。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざしました。

参考指数との差異



当ファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はMSCIワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）です。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+7.8%となり、参考指数騰落率(+14.6%)を下回りました。

これは「シュロダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ」の個別銘柄選択において、コミュニケーション・サービスやヘルスケアなどの業種がマイナスに働いたことなどによるものです。

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

分配金

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を考慮の上、下表の通りとさせていただきます。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	第139期 2023年4月18日 ～ 2023年5月15日	第140期 2023年5月16日 ～ 2023年6月15日	第141期 2023年6月16日 ～ 2023年7月18日	第142期 2023年7月19日 ～ 2023年8月15日	第143期 2023年8月16日 ～ 2023年9月15日	第144期 2023年9月16日 ～ 2023年10月16日
当期分配金（税引前）	20円	20円	20円	20円	20円	20円
対基準価額比率	1.18%	1.14%	1.16%	1.13%	1.14%	1.16%
当期の収益	14円	16円	13円	15円	14円	13円
当期の収益以外	5円	3円	6円	4円	5円	6円
翌期繰越分配対象額	121円	118円	112円	108円	102円	96円

(注1) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、外国投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む各国の好配当株式への投資およびコール・オプションの売却取引を行い、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。

■シュロダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ

賃金インフレへの圧力などから高いインフレ率が続く懸念は根強く、対処するF R Bの金融引き締め姿勢に変化はないとみられることから、今後も米国を中心とした金融政策の引き締め動向が主要なファクターになると見込みます。高インフレと高金利水準により景気への下押し圧力が強い状況ですが、企業の経営活動が保守的になる環境は継続しており、引き続き金融市場の不安心理が大きくなりやすいことから、過度な楽観には注意が必要であると判断しています。景気は減速しつつも良好な雇用環境が景気の下振れリスクを緩和し、金融引き締めの転換が図られることがベストシナリオではありますが、さまざまなリスクがくすぶっていることから、その要素に細心の注意を払う局面が続くと考えています。高インフレと高金利水準の環境下において株式のバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）は株価の押し上げ要因にはなりづらく、個々の企業業績を中心としたファンダメンタルズ（基礎的条件）に着目した物色やセクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の激しい動きが続く可能性が想定されます。

ファンドでは、引き続き好配当株式への投資と“プレミアムプラス戦略”により、安定した収益の確保と値上がり益の獲得をめざします。

(注) プレミアムプラス戦略とは、オプション取引を活用し、オプション料（プレミアム）収入の獲得により、安定した収益の確保をめざす戦略をいいます。主に、保有株式の一定水準以上の値上がり益を放棄する見返りとして、オプション料を受け取る取引を行います。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざします。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

■組入ファンド

	第144期末 2023年10月16日
シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ	97.0%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

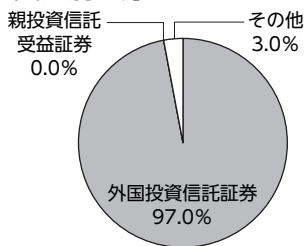
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

■純資産等

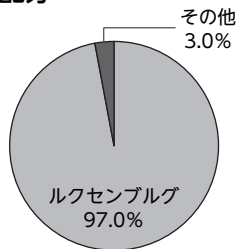
項目	第139期末 2023年5月15日	第140期末 2023年6月15日	第141期末 2023年7月18日	第142期末 2023年8月15日	第143期末 2023年9月15日	第144期末 2023年10月16日
純資産総額	45,936,349,654円	45,623,240,929円	44,004,220,228円	44,542,434,857円	44,134,646,551円	43,003,046,304円
受益権総口数	275,170,010,284口	263,408,739,479口	257,404,677,937口	255,424,996,699口	253,572,291,100口	253,333,738,309口
1万口当たり基準価額	1,669円	1,732円	1,710円	1,744円	1,741円	1,697円

(注) 当作成期間（第139期～第144期）中における追加設定元本額は24,340,492,113円、同解約元本額は70,997,852,614円です。

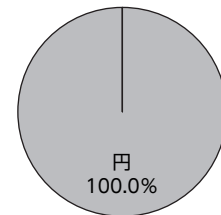
■資産別配分



■国別配分



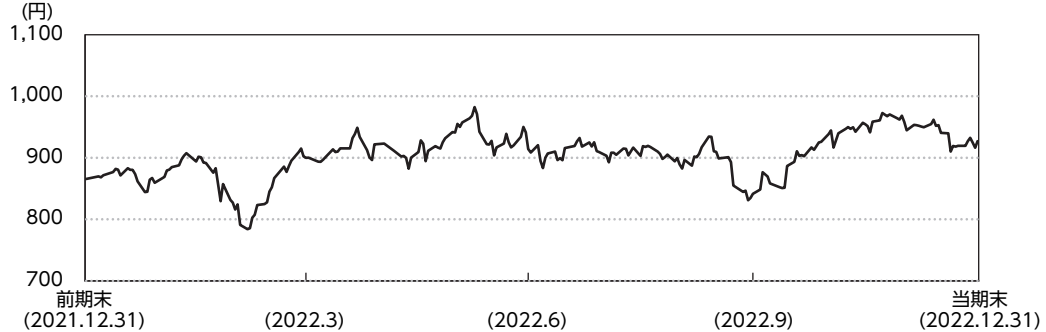
■通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2023年10月16日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJの概要

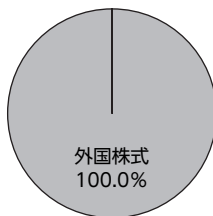
■ 税引前分配金再投資基準価額の推移



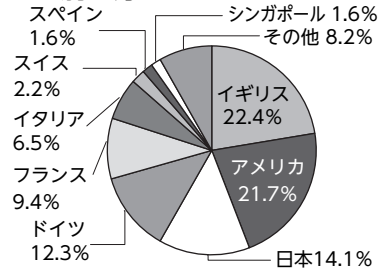
■ 上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
STANDARD CHARTERED PLC	イギリス・ポンド	3.0%
WALGREEN BOOTS ALLIANCE INC	米ドル	2.5
MOLSON COORS BEVERAGE COMPANY CLAS	米ドル	2.4
SANOFI SA	ユーロ	2.4
INTEL CORPORATION CORP	米ドル	2.3
CONTINENTAL AG	ユーロ	2.3
HEIDELBERGCEMENT AG	ユーロ	2.3
HENKEL & KGAA PREF AG	ユーロ	2.2
INTESA SANPAOLO	ユーロ	2.2
UNICREDIT	ユーロ	2.2
組入銘柄数		57

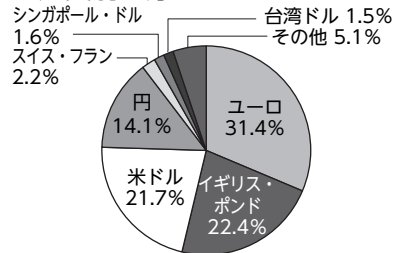
■ 資産別配分



■ 国別配分



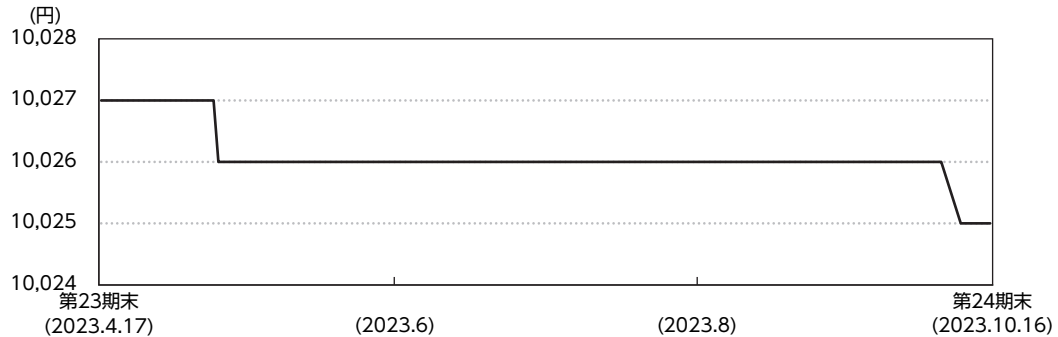
■ 通貨別配分



- (注1) 主な投資対象となる「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ」が投資している「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンズ」のうち同ファンドにかかる部分についての説明です。
- (注2) 税引前分配金再投資基準価額の推移は、外国投資信託証券の直近の決算期のものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。
- (注3) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、外国投資信託証券決算日（2022年12月31日現在）のものであり、比率は外国投資信託証券の組入株式等に対する評価額の割合です。なお、国別配分はシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社の分類によるものです。
- (注4) 1万口当たりの費用明細は、入手が困難であるため記載していません。
- (注5) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の投資有価証券明細をご参照ください。

ニッセイマネーマーケットマザーファンドの概要

■ 基準価額の推移



■ 上位銘柄

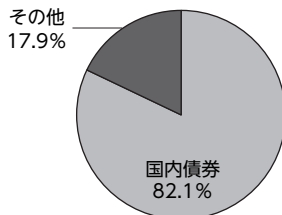
銘柄名	通貨	比率
第132回 共同発行市場公募地方債	円	21.6%
平成26年度第4回 京都府公募公債	円	13.9
第202回 政保日本高速道路保有・債務返済機構債券	円	13.9
平成25年度第11回 埼玉県公募公債	円	12.0
第727回 東京都公募公債	円	11.0
令和元年度第1回 長崎県公募公債	円	7.8
第1121回 国庫短期証券	円	1.9
組入銘柄数		7

■ 1万口当たりの費用明細

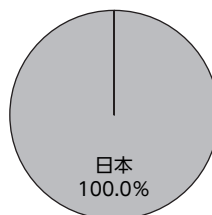
2023.4.18~2023.10.16

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

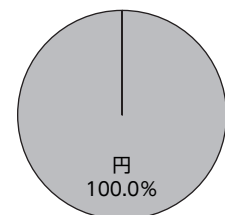
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



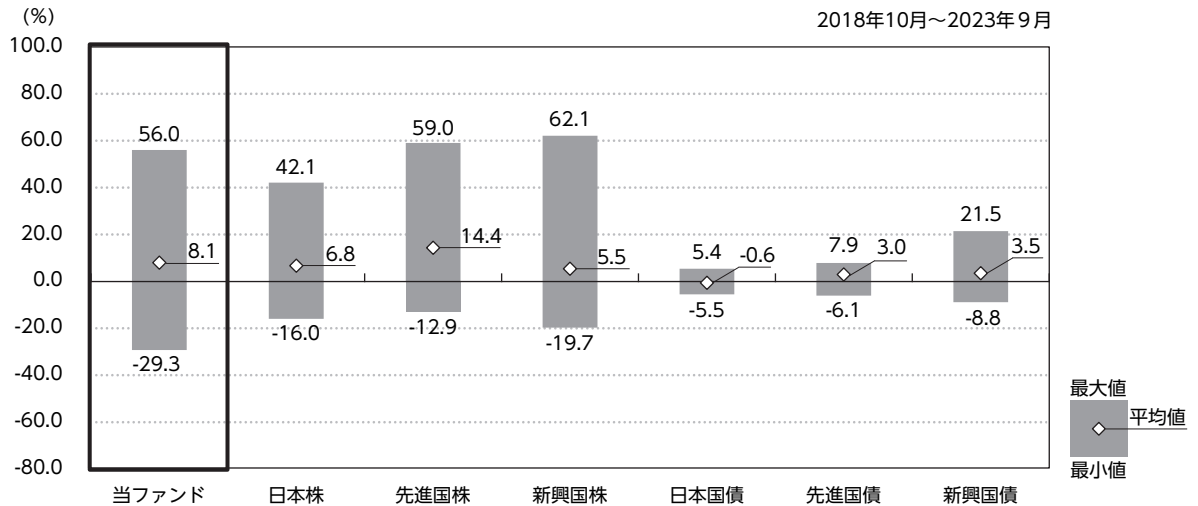
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2023年10月16日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

参考情報

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
- 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

*各資産クラスの指数につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

指数に関して

■ ファンドのベンチマーク等について

- ・ M S C I ワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）

M S C I ワールド・インデックスは、MSCI Inc.が公表しているインデックスです。同インデックスに関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

■ 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数について

- ・ T O P I X（東証株価指数）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- ・ M S C I コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ M S C I エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ N O M U R A - B P I 国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・ F T S E 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・ J P モルガン G B I - E M グローバル・ディバーシファイドは、J P モルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

お知らせ

■自社の実質保有比率

2023年9月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に6.9%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2011年11月1日～2025年10月15日	
運 用 方 針	外国投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む各国の好配当株式への投資およびコール・オプションの売却取引を行い、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	ニッセイグローバル好配当株式プラス（毎月決算型）	「シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ」および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」
	シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド・グローバル・ディビデンド・マキシマイザー クラスJ	日本を含む各国の株式およびオプション取引
	ニッセイマネーマーケットマザーファンド	円建ての短期公社債および短期金融商品
運 用 方 法	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。	